

おじゃみズキー

港北区区民活動支援センター グループ活動訪問記



支援センター職員が区内で活動するサークルの活動場所におじゃまします！

©横浜市港北区みズキー

今回は、「港北文庫のつどい」をご紹介します！！

「港北文庫のつどい」は、1974年に発足し“子どもの本を通して子どもの心を考える”をメインテーマに40年読書活動を続けているグループです。始まりは地元の読書会と区役所が主催していた“親子読書教室”です。市立図書館が野毛に一館しかなかった時代、区内あちこちで家庭文庫が生まれ、1977年図書館設置運動が始まると同時に「港北文庫のつどい」が誕生し、読書教室が引き継がれました。港北図書館が1980年にオープンすると会場をそちらへ移し、子どもを取り巻く環境が変化していく中で、直接作者の方のお話を伺う機会を通し絵本や児童書に対する意識を高め、親子で良い本と出会えることを願い、毎年絵本作家・児童文学者・翻訳・編集者・科学者など、子どもの本に関わる幅広い分野の専門家を招き“秋の講演会”を開催しています。この40年間で150名以上に講演いただきました。

第43回 港北文庫のつどい 秋の講演会

- 【1回】「子どもと本をめぐる」松岡享子氏（(公財)東京子ども図書館名誉理事長）
- 【2回】「人間は生きものというあたりまえのこと—ケストナーを読みながら—」中村桂子氏（JT生命誌研究館館長）
- 【3回】交流会～運営委員の進行で担当者の裏話など～
- 【4回】「絵本と鳥の巣の不思議」鈴木まもる氏（絵本画家）



講演者の中村 桂子氏

10月6日は、第43回を迎えた“秋の講演会”第2回目「人間は生きものというあたりまえのこと—ケストナーを読みながら—」JT生命誌研究館館長 中村桂子氏の講演取材しました。理学博士である中村氏は、ドイツの詩人・作家であるエーリヒ・ケストナーの作品「ふたりのロッテ」を例に、子どもの視点を通して描かれる人間の在り方や「生命誌絵巻」のスライドを使い、「みんなが生きられる、という場所を作っておく」大切さについて話されました。

後半は、参加者68名からの質疑応答の時間でした。中村氏が理学博士を目指した理由や、ケストナーの他の作品についてなどさまざまな質問がありました。



講演の様子

メンバーに40年もグループが続いている理由をお聞きしたところ、まず本が大好きなこと、会員それぞれの都合によってはしばらく休まれたり、という無理のないペースで続けられる点を挙げていました。誰かがリーダーになるのではなく皆が同じ立場でグループを運営していく、という体制も特徴だそうです。

「港北文庫のつどい」では、現在会員を募集しています。月一回の定例会では、毎年開催する秋の講演会の計画や準備を行っています。子どもの本に興味のある方、ぜひ気軽にご参加下さい！

港北文庫のつどい

- ◆活動日時：[定例会] 毎月第2水曜日 13:00～2時間くらい
 - ◆活動場所：港北図書館会議室 ◆現在の会員数：11名
 - ◆申込・問合せ：港北文庫のつどい 森田 TEL 435-1015
- HP <http://kohokubunko.web.fc2.com/>



「港北区まちの先生」募集中！！ あなたの力を地域に活かしてみませんか！

「まちの先生」とは、さまざまな特技、技術、経験をお持ちで、その専門知識を港北区内の地域活動や学習活動に活かしたいと考える方にご登録いただくボランティアです。

現在、手工芸・美術・健康・ダンス・音楽ほか、いろいろな分野の約200講座の「まちの先生」が登録しています。登録後は、区民活動支援センターが、区内のグループ・団体や地区センターなどの地域の公共施設、福祉施設、学校などの依頼者とつなぎます。

- 郷土文化、ガーデニング、食に関すること、子ども向けワークショップなどのジャンルも募集中です。
- ★11月30日（木）までにご登録いただくと「港北区まちの先生ガイド2018」（冊子）に掲載できます。
- ★活動団体の登録も受け付けています。詳細は下記まで。

申込・問合せ：区民活動支援センター TEL&FAX 540-2246

